

自治会活動  
活性化の輪を  
広げよう！

**魅力ある  
自治会づくり  
支援事業補助金  
活用事例集**

**令和 5 年度**

みんなでまちづくり課  
宇都宮市自治会連合会



## この事例集について

この事例集は、「令和5年度 魅力ある自治会づくり支援事業補助金」を活用し、自治会自らが創意工夫のもと取り組んだ事例をとりまとめたものです。これから取組を始めようとする自治会へのモデルとしていただけるよう、活動分野別に事例をご紹介します。

※「令和5年度 魅力ある自治会づくり支援事業補助金」の概要は以下のとおりです。

## 令和5年度 魅力ある自治会づくり支援事業補助金

### 1 目的

「自治会の魅力を高め、自治会への関心向上と参加意識の醸成を図ること」や「自治会の重要性の理解を図り、加入を勧めること」に「取り組みたい」と考える自治会を支援し、自治会の活性化を図ることを目的とする。

### 2 補助金概要

#### (1) 補助交付先

宇都宮市自治会連合会

#### (2) 事業実施主体

地区連合自治会（単位自治会、NPO、企業等との連携により実施）

#### (3) 対象となる事業

下記の目的を達成するため、自治会が行う自治会加入促進・活性化に資する以下の取組で継続性のあるものを対象とする。

- ・ 集合住宅への加入促進（「宮PASS」の活用など）
- ・ ICTを活用した情報発信の強化
- ・ 地域防災力の向上
- ・ 共助による福祉力の向上（高齢者の退会防止など）
- ・ 運営や活動の見直し、役員等の負担軽減 など

#### (4) 補助対象数及び補助限度額

補助対象数：10地区

補助限度額：1地区あたり225千円（市200千円、宇自連25千円）

#### (5) 補助対象経費

| 経費（例） | 対象とする経費（例）                                          |
|-------|-----------------------------------------------------|
| 報酬費   | 講師等謝金など                                             |
| 消耗品費  | 事務用品、コピー用紙などの消耗品など                                  |
| 印刷製本費 | チラシ・パンフレット印刷、会議資料印刷など                               |
| 通信運搬費 | 郵便料金など                                              |
| 賃借料   | 講演会、イベント等の開催会場の使用料や機器等の借上費など                        |
| 備品購入費 | 事業に必要な事務用品、資器材の購入費など（10万円未満）<br>※継続的な活動につなげる備品の購入は可 |

# 目 次

## <自治会加入促進>

- ・ 次世代に伝える平石の「家庭料理レシピ本」を活用した地域づくり事業  
（平石地区：平石地区自治会連合会）  
・・・ 2
- ・ 自治会魅力発信事業 ～「大谷の響き」ウエルカムコンサート～  
（城山地区：城山地区連合自治会）  
・・・ 4
- ・ 自治会加入促進事業  
（陽東地区：陽東地区連合自治会）  
・・・ 6

## <自治会活動のデジタル化>

- ・ 地域 ICT プラットフォーム「結ネット」の活用による自治会加入促進事業  
（清原地区：清原地区自治会連合会）  
・・・ 10
- ・ 自治会のデジタル人材育成事業 ～チャレンジ！パソコン教室！～  
（宝木地区：宝木地区自治会連合会）  
・・・ 12

## <地域防災力の向上>

- ・ 姿川地区「デジタル版マイ・タイムライン」の製作  
（姿川地区：姿川地区自治会連合会）  
・・・ 16
- ・ 防災避難指針の作成  
（上河内地区：上河内地区連合自治会）  
・・・ 18
- ・ 築瀬地域防災力強化向上事業  
（築瀬地区：築瀬地区連合自治会）  
・・・ 20
- ・ 地域一体となった防災事業  
（富士見地区：富士見地区連合自治会・富士見地区防災会）  
・・・ 22

## <変革する自治会>

- ・ 住民と共有した変革する自治会の構築  
（河内地区：河内地区連合自治会）  
・・・ 26

自治会加入促進

## 平石地区（平石地区自治会連合会）

### 次世代に伝える平石の「家庭料理レシピ本」を 活用した地域づくり事業

#### 地域の課題と対応の方向性

- 生活スタイルや物価高騰などの社会環境の変化から、自治会に加入しない若年層世帯や、高齢者世帯が自治会を退会する事案が生じており、地域コミュニティの希薄化が進んでいることから、地域住民の人的交流の活性化が必要である。  
⇒ 「住んでいて良かった」、「自治会に加入していて良かった」と実感できるように「食」を通じた事業を幅広い世代に発信し、地域コミュニティの充実強化を図る。

#### 事業内容

- ・ 平石塾でこれまで培ってきた家庭料理では多くのレシピがあり、その中から和食・洋食・中華料理で、栄養バランスを考慮しながら、季節ごとに計 50 品目を厳選し「家庭料理レシピ本」を製作した。
- ・ 「家庭料理レシピ本」を自治会加入世帯に全戸配付するとともに、自治会新規加入世帯には随時配付し、「食」を通じて地域コミュニティ形成の一助とした。
- ・ 口コミで広がる効果を見据え、「家庭料理レシピ本」を地域各種団体等へ提供するとともに、掲載した料理の調理実習・試食会を開催するなど、更なる地域コミュニティの活性化を図った。



【活動の様子】

## ここがポイント！

- ・ 日常において食生活は重要なことであり、「食」をテーマにしたものは人の心をつかむものである。
- ・ 地域の家庭料理の「家庭料理レシピ本」を製作し、地域各種イベント等で教材とし、「食」を通じて、住民の交流を促進していく。

## 事業実施による成果・効果

- ・ 「家庭料理レシピ本」を活用した料理教室を開催することにより、地域住民が暮らしの中で大切な「食」を通じて交流し、親睦が深まる。
- ・ 地域活動に参加しやすい雰囲気が芽生え、更なる住民同士の連帯感が育まれ、各種事業への参加意識の向上につながることを期待できる。

## 次年度以降に向けて

- ・ 「家庭料理レシピ本」を教材として利活用し、子どもから高齢者まで幅広い世代を対象として調理実習講座を開催する。
- ・ 各種メディアを通じて周知啓発に取り組み、地域活動への参加促進と「食」を通じた人的交流機会の創出を図り、地域活性化に取り組む。
- ・ 文化祭などの各種地域イベント等の機会を捉え、効果的に周知啓発に取り組みながら、自治会加入と地域活性化に取り組んでいく。

## 問い合わせ先

平石地区市民センター

電話 ０２８－６６０－１９６４

# 城山地区連合自治会

## 自治会魅力発信事業 ～「大谷の響き」ウエルカムコンサート～

### 地域の課題と対応の方向性

- 自治会加入や活動参加促進のため、自治会活動の理解促進を図る必要がある。  
⇒ “頑張る自治会”，“まちの魅力を高める自治会”をアピールし、自治会活動の理解促進を図るための啓発イベントとして、地区内の大学などと連携し音楽コンサートを実施する。

### 事業内容

#### 「大谷の響き」ウエルカムコンサート 実施概要

- 1 開催日時：令和5年11月26日（日）午前10時～午前12時
- 2 開催場所：大谷コネクト（宇都宮市大谷町1271-2）
- 3 来場者数：約200名
- 4 主 催：城山地区連合自治会
- 5 協 力：宇都宮短期大学、宇都宮短期大学附属高等学校、  
ベルテラシェ大谷、宇都宮市酪農組合
- 6 イベント内容
  - (1) ウエルカムコンサート
    - ・ 宇都宮短期大学講師による声楽、管弦楽コンサート +
    - ・ 宇都宮短期大学学生による屋外演奏
  - (2) 自治会会員の優待制度「宮PASS」PR
    - ・ 宮PASS持参者に宇都宮短期大学附属高等学校の生徒が作った地元産リンゴのパウンドケーキをプレゼント
    - ・ 会場隣接の「ベルテラシェ大谷」で宮PASSのサービス提供開始
  - (3) 宇都宮市酪農組合による牛乳試飲＆バターづくり体験
  - (4) 自治会加入促進PR
    - ・ 自治会活動PRや加入案内をパネルやチラシにより実施

美味美麗！  
焼き菓子  
プレゼント



【屋外演奏】



【コンサート】



【焼き菓子配布】



## ここがポイント！

- 興味を引くイベント企画  
多くの人に来てもらえるイベントになるよう、オープンしたての大谷コネクトを会場とするなど工夫した。
- 自治会加入メリットのPR  
イベントで宮PASS持参者への特典を設け自治会加入者のメリットをPRした。
- 地域の大学等との連携  
自治会活動への若者の参加のきっかけをつくるため、地区内の大学等と連携し学生の協力を得てイベントを実施した。



【当日は小雨の寒空でしたが多くの来場者で賑わいました。】

## 事業実施による成果・効果

- 「宮PASS」の認知度向上  
イベントを自治会回覧で周知したところ、宮PASSについての問い合わせが多くあり、宮PASSの認知度向上を図ることができた。  
また、イベントを契機に新たなサービス提供店を開拓することができた。
- 自治会活動の理解促進  
自治会活動や加入促進のPRを行う中で、自治会加入を家族と相談する来場者もあり、自治会未加入者に自治会活動に触れるきっかけを作ることができた。
- 学生との連携体制の構築  
これまで、城山地区連合自治会において大学生や高校生と協力して活動する機会が乏しかったが今回の取組で連携するきっかけをつくることができた。

## 次年度以降に向けて

今回の取組で得た学生や事業者との関係を生かしながら、今後も地域住民に自治会活動に興味を持ってもらえるような新たな取組にチャレンジしていきたい。

## 問い合わせ先

城山地区市民センター  
電話 028-652-4794

# 陽東地区（陽東地区連合自治会）

## 自治会加入促進事業

### 地域の課題と対応の方向性

- 総体的に自治会加入世帯が漸減傾向にある中で、今後集合住宅等の増加が予想される中、集合住宅等への加入促進に重点を置いた活動を展開していく必要がある。  
⇒ 「自治加入促進パンフレット」を作成し、各自治会で未加入世帯への働きかけに活用するとともに、県宅建協会中央支部会員に自治会啓発資料としての活用協力を依頼。  
各自治会の「のぼり旗」を作成し、様々なイベントにおいて活用するとともに、活動の様子を撮影した動画などにより、自治会活動に対する住民理解の促進を図る。

### 事業内容

- ・ 陽東地区版「自治会加入促進パンフレット」の作成
  - ・ 各自治会長に「自治会加入促進パンフレット」活用による自治会加入促進活動を要請
  - ・ 県宅建協会中央支部会員に「自治会加入促進パンフレット」活用による自治会啓発への協力を依頼
- 【自治会加入促進パンフレット】



- ・ 各自治会の「のぼり旗」を作成。地区内での様々なイベント等で活用するとともに、イベント等の動画映像も活用して自治会活動を「見える化」して住民理解の促進を図る。



【各自治会の「のぼり旗」でLRT 一番電車を出迎え】

## ここがポイント！

「自治会加入促進パンフレット」に陽東地区の自治会エリアを明示するとともに、自治会加入世帯に対する宇都宮市と宇都宮市自治会連合会の特典制度をわかりやすく整理した一覧表を掲載。「自治会加入促進パンフレット」の有効活用により、自治会活動に対する住民の理解を促進し、自治会加入率の向上を図る。

## 事業実施による成果・効果

- ・ 「自治会加入促進パンフレット」の活用による自治会加入促進  
各自治会における集合住宅等の自治会未加入世帯に対しての活用と、県宅建協会中央支部の会員店舗における物件の仲介等の際の啓発資料として活用により、自治会加入率の向上が期待できる。
- ・ 自治会活動の「見える化」による住民理解の促進  
陽東地区内での様々なイベントにおいて各自治会の「のぼり旗」を掲げるとともに、イベント等の様子を撮影して映像資料として活用するなど、自治会活動の「見える化」により、住民の理解促進が期待できる。

## 次年度以降に向けて

令和5年度事業の成果品を活かした活動を継続するとともに、各種イベント等の会場において自治会活動紹介コーナーなどを設置し、来場者に対する自治会活動の啓発と、自治会加入促進活動の実施を検討していく。

## 問い合わせ先

宇都宮市東市民活動センター  
電話 028-638-5784



自治会活動の  
デジタル化

# 清原地区（清原地区自治会連合会）

地域 | CTプラットフォーム「結ネット」の活用による自治会加入促進事業

## 地域の課題と対応の方向性

- 若者世代の参画による地域コミュニティの形成に向け、魅力ある自治会活動への取り組みが必要である。  
⇒ 清原地区自治会連合会が、令和4年度に運用を開始したアプリ「結ネット」を活用し、自治会情報を積極的に発信しながら自治会への関心を高め、地域コミュニティを形成する。

## 事業内容

### 1 「結ネット」の円滑な運用継続と利用機会の拡充

- ・ 日常の事務連絡やイベント等の周知・案内、さらには緊急時の連絡など、自治連役員が主体となって情報を発信している。  
また、「結ネット」を活用した「災害時要援護者」等の安否確認の運用を開始した。
- ・ 「結ネット」登録状況：清原地区自治会連合会（22 自治会）、清原地区防災会（防災担当者 49 名）、災害時要援護者（52 名）

〈参考〉清原台2丁目自治会（146 名）、清原台4丁目自治会（72 名）  
は、自治会独自に運用している。

### 2 「災害時要援護者支援」における活用

- ・ 「結ネット（災害モード）」を活用した、要援護者の安否確認を清原地区防災訓練において実施し、災害時要援護者への支援体制を新たに構築し、令和5年9月から運用を開始している。

〈支援班構成〉

清原地区自治会連合会  
清原地区防災会  
清原地区民児協  
清原地区社協  
清原地区包括支援センター等



【支援の様子】

【支援体制】



### 3 「結ネット」導入自治会への支援

- ・ ゆいの杜3・4丁目自治会に適宜必要な情報を提供するとともに、現在運用中の「LINE」ではできないことや「結ネット」利用のメリット・デメリットなど、具体的な内容・手法等について検討中  
※ 最終決定は令和6年上半期頃



#### 4 自治会加入促進

- ・ 清原地区自治会連合会で作成した「自治会加入促進チラシ」を令和6年2月開催の「きよとこ 清原マルシェ」の来場者に配布し、自治会活動を紹介するとともに、自治会加入や脱会防止の呼びかけを実施した。【自治会加入の案内】

その他の取組として、センター窓口で、転入者へのチラシ配布や、自治会加入強化月間に合わせ、チラシを活用した自治会加入への取組を全自治会で実施中  
(令和6年3月～)



### ここがポイント！

地域ICTプラットフォームサービス「結ネット」は自治会運営において、平常時は、自治会の電子回覧板や行政・事務局等からの情報発信ツールとして、災害時には、「安否確認システム」として利用できる。



【災害モードメニュー】



【緊急災害情報画面】



【安否状況報告画面】

### 事業実施による成果・効果

- ・ 「結ネット」機能の円滑操作により、自治会役員の負担軽減と自治会運営の効率化が促進された。
- ・ 「結ネット（災害モード）」を活用した新たな災害時要援護者支援体制を構築し、運用を開始した。

### 次年度以降に向けて

- ・ 若い世代が自治会活動に関心を持てる情報の発信
- ・ 「結ネット」などのデジタルツールを活用した更なる自治会運営の効率化
- ・ 「デジタル活用アドバイザー」を活用した自治会運営に携わる人材の育成

### 問い合わせ先

清原地区市民センター

電話 028-667-5696

## 宝木地区（宝木地区自治会連合会）

### 自治会のデジタル人材育成事業

～チャレンジ！パソコン教室！～

#### 地域の課題と対応の方向性

- 自治会は、加入率の低下、担い手不足等により、活動の持続可能性が低下している。その一因として、パソコンスキルがなく、会議及び会計資料などの作成が負担となり、役員が担えないこと等が課題として挙げられる。自治会活動の持続可能性を高めるためには、自治会内にデジタル人材を育成し、担い手の確保を図ることが必要である。

⇒ 自治会の資料作成等に必要である、基本的なパソコンスキルを学ぶパソコン教室を実施するとともに、自治会運営に必要な連絡、情報収集のためのスマホ教室を実施する。

#### 事業内容

##### 1 パソコン教室の実施

期 間：令和5年 10月3日～12月9日

期間中受講者の技術レベルに合わせて、延べ 27 回開催

受講者：10 名

（参加者 延べ 120 名）

内 容：自治会運営に必要な通知文や決算書作成等資料の習得を目標とした。

講 師：NPO 法人 IT アットうつのみや

##### 2 スマホ教室の実施

期 間：令和5年9月 14 日、21 日

受講者：14 名

（参加者 延べ 28 名）

内 容：自治会運営に必要な連絡、情報収集等にスマートフォンを活用できることを目標とした。

講 師：株式会社 ハヤブサドットコム

##### 3 その他

実施に当たっては、地域内小中学校 PTA 役員等の若い世代にボランティア講師として、事業に協力していただいた。

（協力者 18 名／参加者 延べ 156 名）



## 4 活動の様子

【パソコン教室】



【スマホ教室】



### ここがポイント！

- パソコン教室、スマホ教室ともに、専門家を講師に招請し実施し、それぞれ地域内小中学校 PTA 役員に、ボランティア講師として協力していただいた。
  - ⇒ マンツーマンのきめ細やかな支援が可能となった！
  - ⇒ 地域内の新たな交流のきっかけとなった！！
  - ⇒ 若い世代の自治会活動への理解促進と参加促進のきっかけとなった。

### 事業実施による成果・効果

自治会活動の中核を成す、比較的パソコンに馴染みのない世代を対象に実施したものであるが、習得レベルに合せたきめ細やかな講座の実施と、共通のマニュアルやテンプレートの活用により、参加者が自治会運営資料の作成に対しての負担感が軽減する実感を得ることができた。

デジタルへの苦手意識が払拭でき、今後のデジタル活用による自治会運営の効率化や役員の負担軽減、会員へのサービス向上に向けた取組の一步となった。

### 次年度以降に向けて

パソコンやスマートフォンの基礎的操作の取得により、次年度は、資料のデータ化等によりデジタルを活用した自治会活動を推進し、自治会運営の効率化や役員の負担軽減を図るほか、防災等の行政情報、行事、会議通知など地域情報の取得・連絡においてもスマートフォンによるデジタルを活用し、若い世代にも好意的に受け入れられる運営に取り組んでいく。

### 問い合わせ先

北市民活動センター

電話 028-622-7093



**地域防災力  
の向上**

## 姿川地区（姿川地区自治会連合会）

### 姿川地区「デジタル版マイ・タイムライン」の製作

#### 地域の課題と対応の方向性

- 近年、毎年のように大雨や台風などの風水害が頻繁に発生している中、住民一人ひとりが災害レベルに合わせ、スムーズに行動できる体制を取っていくことが重要と考える。
- 姿川地区自治会連合会では、紙ベースで「マイ・タイムライン」の作成を検討していたところ、活用面において「サイズが大きすぎる」、「日頃の目に付かない」など、課題が挙がったところである。  
⇒ このようなことから、これらの課題解決を図るため、地域のデジタル化の推進を模索していた姿川地区市民センターと協働で取り組むものとした。

#### 〈参考〉マイ・タイムラインとは

台風や集中豪雨などの風水害に備えて、家族構成やお住まいの地域の環境などに合わせて、どのような避難行動をとるのかをあらかじめ時系列に整理しておく、一人ひとり（または家族単位）の「防災行動計画」

#### 事業内容

- ・ 姿川地区自治会連合会において、災害時など、“いざ”というときに避難行動の確認ができるよう、QRコード読み取り式にした「マイ・タイムライン」を考案
- ・ 日常的に目にすることができるよう、コンパクトサイズのマグネット製とした。  
⇒ 地域における「デジタル化の推進」及び「防災意識の高揚」を図る。

#### ここがポイント！①

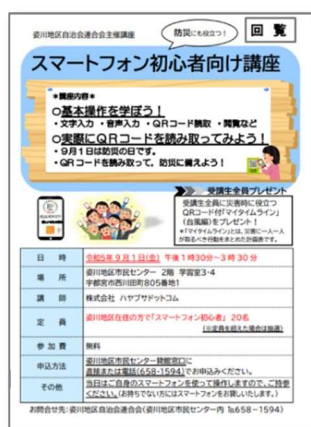
- ・ QRコードを読み取るだけで、簡単に災害レベルに応じた避難行動を確認できる。
- ・ QRコードの活用で文字数を減らし、20cm<sup>2</sup>のコンパクトサイズとし、素材をマグネット製にし、冷蔵庫などに貼ることで日頃から目に付く。
- ・ スマホ初心者講座の教材にも活用し、「デジタル化の推進」と「防災意識の高揚」に効果あり。

## ここがポイント！②

### 【QRコード付き「マイ・タイムライン」】



- デジタル化で 20cm<sup>2</sup>とコンパクトに！
- マグネットシート製なので、冷蔵庫など、目の付く所に貼れる！
- 日頃からの防災意識の向上にも役立つ！



【講座案内チラシ】



【講座の様子】

## 事業実施による成果・効果

- ・ 防災の日（令和5年9月1日）に合わせた「スマホ初心者講座」の開催や、地区イベント「防災フェア」で参加者に配布することで、「防災意識の高揚」が図られた。
- ・ また、「スマホ初心者講座」に教材として活用することで、参加者（高齢者）による地域デジタル化（デジタルデバイド対策）にも効果が見られた。
- ・ 「地域活動団体のデジタル活用セミナー」事例発表
- ・ テレビや新聞等のメディアにも複数取り上げられ、広く周知された。

## 次年度以降に向けて

- ・ 地域における「防災意識の高揚」や「地域デジタル化」の推進をより一層図るため、引き続き「スマホ初心者講座」の開催や、防災関連の地区イベント等における「QRコード付きマイ・タイムライン」の配布・周知を行っていく。

## 問い合わせ先

姿川地区市民センター  
電話 028-658-1594

# 上河内地区（上河内地区連合自治会）

## 防災避難指針の作成

### 地域の課題と対応の方向性

- 当地区では、令和3年度に防災業務に携わる関係者全員に「防災計画・防災マニュアル」を配布し、これをもとに防災研修と訓練を実施し、令和4年度には「マイタイムライン」を作成・配布して災害予防に活用している。今回、自分の命を守る避難行動の冊子を作成し、自治会未加入世帯を含む全世帯に配布し、防災意識の向上を図る必要がある。

⇒ 「防災避難指針」の冊子を活用し、防災訓練を実施する。

### 事業内容

「防災避難指針」の作成・配布を行い、未加入世帯を含む全世帯に配布し、防災の意識向上に努めた。本冊子が有効活用できるよう、まちづくり、自治会等の各種事業の実施時に活用する。

- 1 作成時期：令和5年12月頃
- 2 配布時期：令和6年1月頃
- 3 配布数：未加入世帯含む 約4,000部（印刷部数 8,000部）
- 4 冊子の活用策

- ・ 全世帯配布

本冊子を全世帯配布し、日頃の備えの重要性、防災従事者の共助意識の醸成、地域住民等の助け合いの理解促進、自治会脱会防止、入会機会の一助に活用していく。

- ・ まちづくり協議会の勉強会

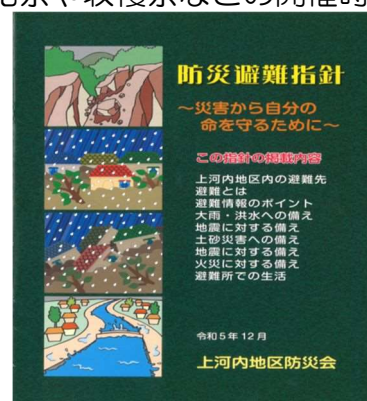
まちづくり協議会では、当地区の空き家が急増していることから、空き家抑制策として、「住まいの終活」「空き家税対策」等の勉強会を予定しており、当該機会に本冊子を配布して参加者の防災意識の向上を図る。

- ・ まちづくり協議会主催イベント

令和6年度開催予定の花火大会、文化祭や収穫祭などの開催時に配布し、防災の啓発を行う。

- ・ 防災訓練

- ・ 地区市民センター等に常時備え付け



【防災避難指針】

## ここがポイント！

上河内地区において、令和3年度の防災関係者による「防災マニュアル」等の整理に続き、令和4年度には各家庭における防災行動として「マイタイムライン」を活用、そして令和5年度に自らの命を守る「防災避難指針」の作成・配布により、上河内地区の防災意識の醸成を図り、地域の安全安心を充実することで自治会加入促進につなげていく。

## 事業実施による成果・効果

自治会未加入世帯に配布することにより、昨年度配布の「マイタイムライン」と合わせて、個々の住民が防災の自助力を高められた。また、自治会の防災訓練等において、個々の住民が自分ごととしての防災意識の向上が図れた。

## 次年度以降に向けて

自治会及び地区全体の防災訓練実施の際は、本冊子を活用して素早い避難に心掛ける自助力の向上を図る。

また、住宅地や新設の集合住宅など、未加入世帯が多くある単位自治会と連携をはかり、防災に関わる事業等において冊子等を活用して交流を深め、自治会加入につなげていく。

## 問い合わせ先

上河内地区市民センター

電話 028-674-3131



# 築瀬地区（築瀬地区連合自治会）

## 築瀬地域防災力強化向上事業

### 地域の課題と対応の方向性

- 令和元年の台風 19 号により大きな被害を受けた築瀬地域では、自主防災会の機能の強化が求められている。  
⇒ これからの自然災害に対しては、共助にあたる避難所設営から運営、また、緊急連絡体制などを再整備することで、地域住民の防災意識を高めることにより、地域全体の防災力の強化向上を実施する。

### 事業内容

- 1 コミュニティセンター（地域）の防災訓練
  - ・ 防災組織の活動内容確認
  - ・ 避難所設営の確認
  - ・ 防災倉庫、体育館備蓄品の点検と備蓄品の公開
- 2 緊急連絡体制の整備
  - ・ 地域のホームページの整備
  - ・ 連絡手法の構築（メールや LINE 機能の活用）
  - ・ 防災活動協力者への連絡
  - ・ 災害時要援護者支援制度の理解促進と支援者名簿の整備
- 3 築瀬地域防災計画の策定に向けた検討
  - ・ 防災体制の検討、策定
  - ・ 危険箇所などを明記することにより、各自が避難所までの安全なルートを書きこめる防災マップの作成
- 4 防災意識向上
  - ・ 各種団体が開催するイベントにおいて防災コーナーを設け、防災グッズ・非常時持ち出し品など（実物）を展示
  - ・ 体育祭で防災に関連した種目の設定



【防災グッズ】

## ここがポイント！

### 1 防災意識の向上

- ・ 地区体育祭にて防災に関する種目を新たに設けて実施することにより、参加者が防災について考える機会を創出できた。同時に防災倉庫内の備蓄品を公開し、地域の備えについて理解を深めた。

### 2 防災組織の活動

- ・ 各自治会協力のもと、課題の洗い出しと各自治会の防災組織調査を実施した。
- ・ 各自治会より情報を収集し、防災マップ作成に繋げた。

【地区体育祭】



【防災マップ作成】



## 事業実施による成果・効果

### 1 自治会加入促進について

- ・ 「防災」という誰もが関わる内容をメインとし、小学校のイベントと協力して行うことにより、自治会活動を知らない住民に対し、地域とつながることの大切さをPRすることができた。

### 2 地域の活性化について

- ・ 体育祭にて防災に関する種目を実施したことにより、防災組織の構築を進める単位自治会が増え、住民の横の繋がりや防災意識の向上がみられた。

## 次年度以降に向けて

- ・ 地域住民の防災意識向上に向けた取り組みをきっかけに、自治会活動に関心を高めてもらい、ネットワークを広げていきたい。(継続)
- ・ 「築瀬地域防災計画」について、「要援護者支援制度」による支援の再確認や更なる組織体制の向上を図る。

## 問い合わせ先

中央市民活動センター

電話 028-632-6331

# 富士見地区（富士見地区連合自治会・富士見地区防災会）

## 地域一体となった防災事業

### 地域の課題と対応の方向性

- 昨今の異常気象による災害発生により、住民の防災への興味関心が高まる中で、地域全体での「防災マニュアル」の必要性が問われている。  
⇒ 地域全体で実態に即した効率的かつ実効性のある「富士見地区防災マニュアル」を作成し、住民一人ひとりの防災意識を高めるとともに、情報の共有化を図り、住人同士の共助の心、更には絆を育み、防災への協力体制と日常的なつながりを構築していく。

### 事業内容

1 防災対策における「富士見地区防災マニュアル」の作成等に対する「プロジェクト会議」の設置（令和5年5月27日）

2 マニュアル作成までの会議開催（計 32 回開催）

- ・ デジタルツールの活用に向けた検討
- ・ 富士見地区防災マップ(案)作成（令和5年 10 月中旬）
- ・ 宇都宮市危機管理課との調整及び各自治会との調整
- ・ 富士見地区の内水氾濫の危険箇所点検を写真撮影してマップに入れ込む（令和5年 11 月 15 日）
- ・ 印刷製本に関わるデザイン等の打合せ、各担当に掲載についての調整（令和5年 12 月～令和6年 1 月上旬）
- ・ 4,200 冊作成予定の印刷見積書を業者より提出依頼（令和5年 12 月下旬）
- ・ 印刷発注（令和6年 1 月中旬）
- ・ 印刷業者納入（令和6年 3 月中旬）
- ・ 富士見地区自治会員全世帯に「富士見地区防災マニュアル」を配布（令和6年 3 月中旬）



【会議の様子】



【会議の様子】

### ここがポイント！

- ・ 富士見地区の防災マニュアル作成にあたって、デジタルツールを活用して、QR コードを使用した「防災関連情報・避難場所開設確認情報」を提供することとした。
- ・ 家族で災害時の日常的な安否確認等を事前に話し合っておくことの大切さ、及び家庭内備蓄・非常持出品の準備を奨励した。

- ・ 富士見地区の全体マップに一時避難場所及び避難場所を明確化して、災害時にスムーズな対応ができるようにした。

また、地域内の AED 設置状況を地図上に掲載することで、日常生活の緊急時使用を円滑にすることとした。

#### 【防災マニュアル】



### 事業実施による成果・効果

- ・ 初めて地域の全体的な「防災マニュアル」を完成させ、各世帯に配布することにより、防災に対する備えや、考え方の共有化を図り地域の一体感を高めるとともに、災害時における情報の共有化、円滑な避難体制の構築にも役立てることができた。
- ・ また、今回「防災マニュアル」を作成するにあたり、地域内において防災意識の高揚だけでなく、作業を通して住民同士の絆も強化され、自治会への関心も高まった。

### 次年度以降に向けて

新たな災害者支援体制の構築や、自治会における住民に対する災害時支援の情報を広めていく。また、事業を通じて、地域活動の担い手の人材育成、発掘に努めたい。

### 問い合わせ先

西市民活動センター

電話 028-648-8241



**変革する自治会**



# 河内地区（河内地区連合自治会）

## 住民と共有した変革する自治会の構築

### 地域の課題と対応の方向性

- 加速する少子高齢化、人口減少などの社会的要因と地域住民の価値観の多様化やライフスタイルの変化により、役員の担い手不足や若年層の自治会への関心の希薄化が進んでいることから、ますます地域ぐるみで地域を守り支える必要がある。  
⇒ 自治会の既成概念にとらわれない、変革する自治会を目指す。そのためのヒントをまとめた提言集を発行し、今後の自治会運営に活用する。

### 事業内容

#### 1 ワークショップ

- ・ 第1回 若手起業者等と自治会役員による車座トーク（令和5年8月）  
参加者：コーディネーター 宇都宮大学地域デザイン科学部 石井准教授  
宇都宮まちづくり市民工房 安藤理事長  
若手起業者6名 ほか
- ・ 第2回 宇都宮大学生とのワークショップ（令和5年11月）  
参加者：コーディネーター 宇都宮大学地域デザイン科学部 石井准教授  
宇都宮大学地域デザイン科学部 学生12名 ほか
- ・ 第3回 子育て中の親と若手起業者等とのワークショップ（令和5年12月）  
参加者：コーディネーター 宇都宮大学地域デザイン科学部 石井准教授  
子育て中の母親等 6名 若手起業家等 4名 ほか



【車座トーク】



【宇大生とのワークショップ】

#### 2 変革への自治会に向けて

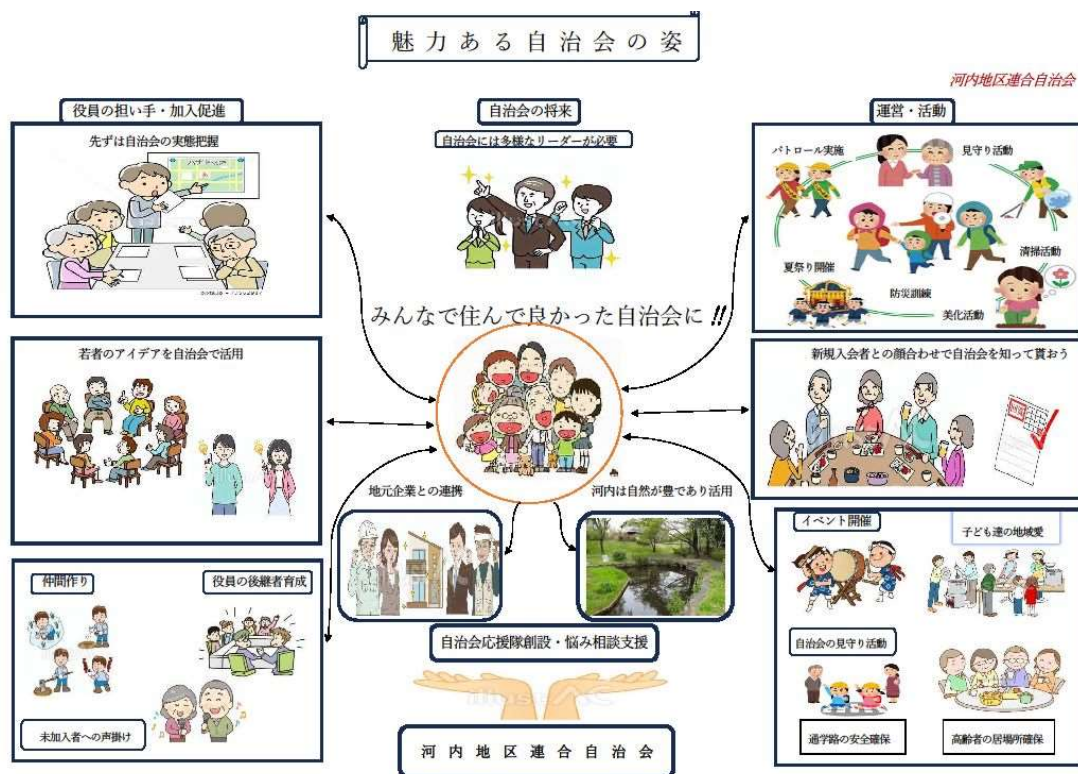
ワークショップやコーディネーター等との意見交換、宇都宮市自治会元気アップ研修会参加による成果などをまとめて、『若い方からの「魅力ある自治会づくり」提言集』を発行し、自治会等に配布

※ 役職等は当時のもの



## ここがポイント！

若年層とのワークショップを行うことで、既成概念にとらわれない自治会運営の発想の転換のきっかけとなった。また、ワークショップを通じて得たヒントから「魅力ある自治会の姿」を共有し、単位自治会を支える「かわち自治会応援隊」の創設につながった。



## 事業実施による成果・効果

- 若い世代の声を直接聞き、意見交換することにより、現状の自治会の姿から脱皮した新しいイメージ（自治会のスタイル）を提示することができた。
- 今回の事業をきっかけに、単位自治会の活動を支援し活性化を支える「かわち自治会応援隊」の創設に取り組むこととなった。

## 次年度以降に向けて

- 提言集を自治会長会議等の研修資料として活用し、自治会長の意識変革を図る。
- 自治会応援隊の創設に取り組むと共に、魅力ある自治会づくりモデル自治会と協働し、魅力ある自治会づくりの事業推進を図り、単位自治会の支援を行う。

## 問い合わせ先

河内地区市民センター

電話 028-671-3201



UTSUNOMIYA



UTSUNOMIYA



UTSUNOMIYA

【問い合わせ先】

宇都宮市 市民まちづくり部 みんなでまちづくり課

電話 028-632-2900

宇都宮市自治会連合会事務局

電話 028-632-2289